

イエスは十字架上で詩編22編の言葉、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのか」(マルコ15章34節)を口にしたとされている。人々のために苦難を受ける「主の僕」または「苦難の僕」の表象が主にイザヤ書、詩編において登場し、新約聖書に引き継がれる。本講演会では、苦難の僕を手がかりに詩編と福音書の関係を探る。第一講では、イザヤ書の苦難の僕の姿を詩編はどのように受容し、詩編神学の表象として用いるようになったかを探る。第二講では福音書、とりわけ受難物語におけるイエスと主の僕の関係について探る。



東北学院大学キリスト教文化研究所 第60回学術講演会

# 詩編と福音書

—主の僕を手がかりに—

2019年

7月20日

13:00~15:00

東北学院大学土樋キャンパス  
ホーイ記念館ホール

駐車場がございませんので  
お車での来場はご遠慮ください。

講師

## 第1講「苦難の僕と詩編」

いしかわ りつ  
石川 立 氏 (同志社大学神学部教授)

【略歴】1953年愛知県生まれ。同志社大学神学研究科博士前期課程修了、ミュンヘン大学神学研究科博士課程修了。神学博士(Dr.theol.)。現在、同志社大学神学部教授。専門は、旧約・新約聖書解釈、聖書神学。共著として『聖書 語りの風景—創世記とマタイ福音書をひらいて』(キリスト新聞社、2006年)などがある。



参加無料  
申込不要

直接会場にお越しください。

## 第2講「福音書における苦難の僕」

ひろいし のぞむ  
廣石 望 氏 (立教大学文学部教授)

【略歴】1961年生まれ。東京大学大学院人文科学研究科西洋古典学専攻課程を経て、チューリヒ大学神学部にて神学博士号を取得。専門は新約聖書学。現在、立教大学文学部教授。著書に『イエス物語 福音書を読む』(コイノニア社)、『信仰と経験—イエスと〈神の王国〉の福音』(新教出版社)などがある。



主催／東北学院大学 キリスト教文化研究所

共催／東北学院大学研究ブランディング事業「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

問い合わせ先 東北学院大学 研究機関事務課 TEL:022-264-6401 FAX:022-264-6530